

米子市水道ビジョン2025

～いつまでも おいしい水を 蛇口から～

— 概要版 —

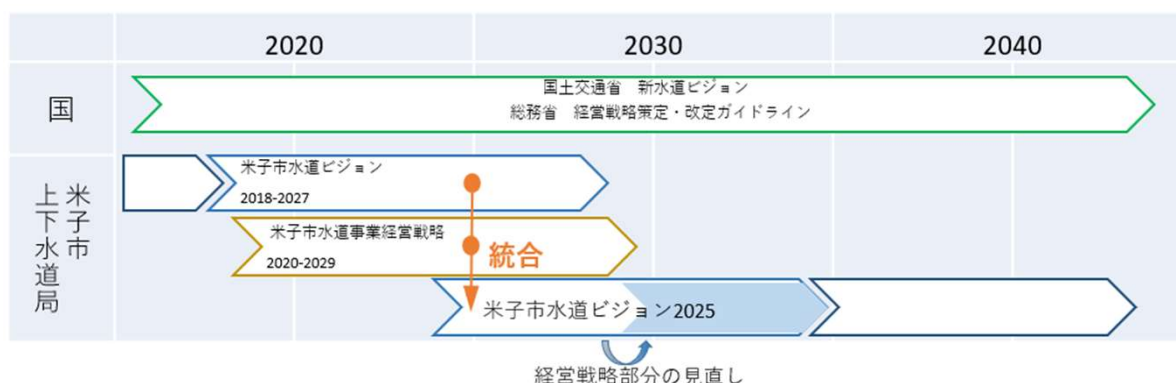


抽象的、
具体的な

米子市上下水道局

水道ビジョン改定にあたって

水道ビジョンとは水道事業の運営に関する方向性と施策推進の基本的な考え方を示す将来計画であり、米子市上下水道局では、平成20年に「米子市水道ビジョン」を、平成30年に「新・米子市水道ビジョン」を策定しています。また、令和2年には投資・財政計画を中心とした「米子市水道事業経営戦略」を策定し経営の基本計画を示しました。今回、経営戦略の見直しにより、水道ビジョンとの統合を早め、令和7年度に「米子市水道ビジョン2025」を策定しました。



1. 改定にあたっての基本的な考え方

将来にわたり安心・安全な水道水を安定的かつ安価に供給することを継続し、持続可能な事業運営を行うため、必要な投資と収支均衡の両立を図ります。

2. 水道ビジョン改定のポイント

- ①水道ビジョンと経営戦略を統合します。
- ②今後、投資財政計画は5年ごと、水道ビジョンは10年ごとに改定します。
- ③事業計画に物価上昇を見込んでいます。
- ④令和10年から老朽管更新を加速実施し耐震化率の向上に努めます。
- ⑤収支の均衡を図るため、令和10年に15.8%の料金改定を見込んでいます。

※改定年と改定率は現時点でのシミュレーションによるものです。

3. 計画期間

令和7年度から令和16年度までの10年間を計画期間としています。

水道事業の現状と課題

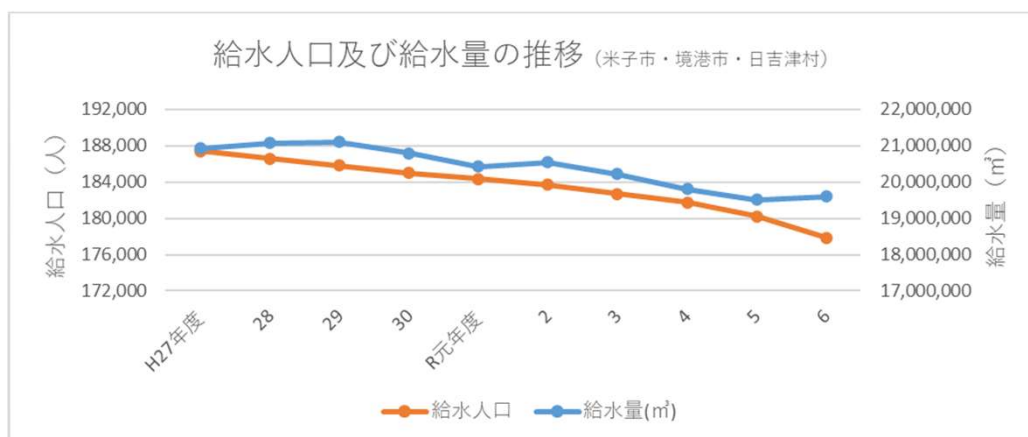
給水人口の減少と水需要の変化

【現 状】

全国の水道事業体で問題となっている給水人口の減少は、本市においても大きな課題となっています。また、節水意識やライフスタイルの変化、大口使用者の水道離れ等により、給水量も減少しています。

【課 題】

水需要の低下は水道事業経営に大きな影響を及ぼします。広報紙やSNSを活用したPR活動や給水人口、給水量に見合った施設・設備・管路の見直しなど、工夫が必要となってきます。



老朽化した施設と管路の耐震化の必要性

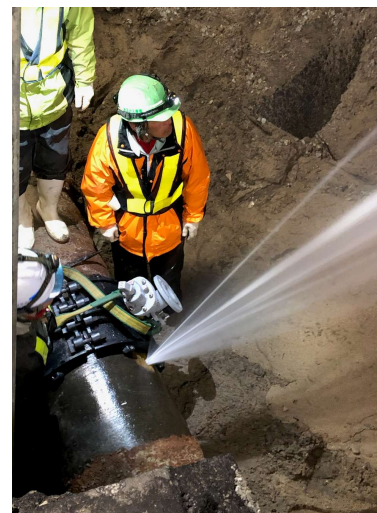
【現 状】

令和6年度実績で本市の導送配水管の総延長は約1,304km、そのうち災害に強い耐震管に分類される管は304km（全体の23.3%）となっています。

【課 題】

水道管の法定耐用年数は40年とされており、昭和59年までに布設された水道管（配水管）の総延長はおおよそ265Kmあるため、早急に更新もしくは適切な延命措置をしなければなりません。

現状管路の把握（布設延長、耐用年数、更新の優先度等）と分析を行い、計画的に管路更新を進めていく必要があります。



緊急修繕の様子

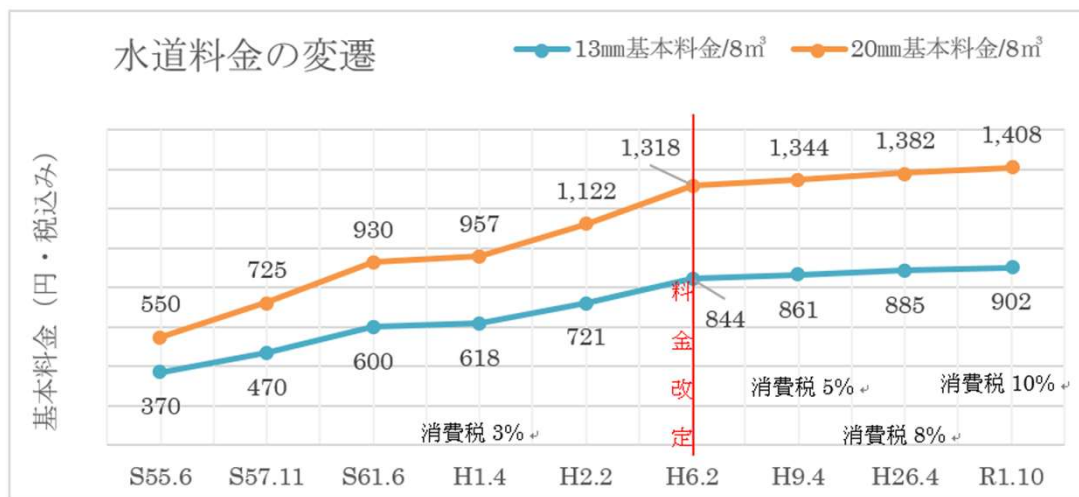
水道料金

【現 状】

本市水道事業では平成6年2月に料金改定（改定率14.61%）を行って以降、消費税増税によるものを除き料金改定を行っていません。

【課 題】

給水人口の減少・節水機器の普及による料金収入の減少、水道施設の老朽化による更新事業の増加といった要素により長期にわたる健全経営の維持が困難であることが予想され、水道料金の見直しが必要となります。



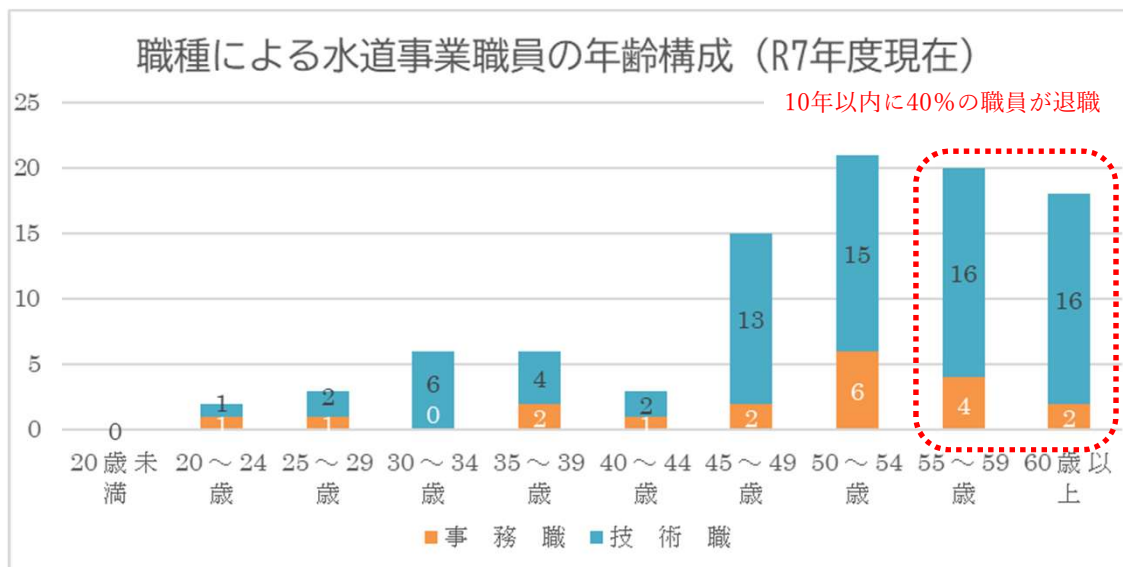
組織体制

【現 状】

令和7年現在、水道事業部門には、8課16担当の部署があり、89名の職員が在籍しています。

【課 題】

今後、10年以内に40%の職員が退職となるため技術力低下が深刻な問題となっています。技術の継承と新規職員の採用が求められます。



基本理念と基本方針

基本理念

「いつまでも“おいしい水を蛇口から”」

基本方針

安全な水道 安心で快適な給水を確保します

- ・ 水源から蛇口までの水質管理
- ・ 自己検査体制の確保
- ・ 鉛製給水管、貯水槽水道の対策

強靱な水道 災害対策等の充実を図ります

- ・ 管路、施設の計画的な更新と耐震化
- ・ 管路の計画的な漏水調査
- ・ 応急給水拠点の確保
- ・ 合同防災訓練の開催

水道サービスの持続

水道の経営基盤の強化・お客さまへのサービスの向上を図ります

- ・ アセットマネジメントによる適正な資産管理
- ・ 人材育成と技術の継承
- ・ DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
- ・ ペーパーレス化、スマートメーターの導入

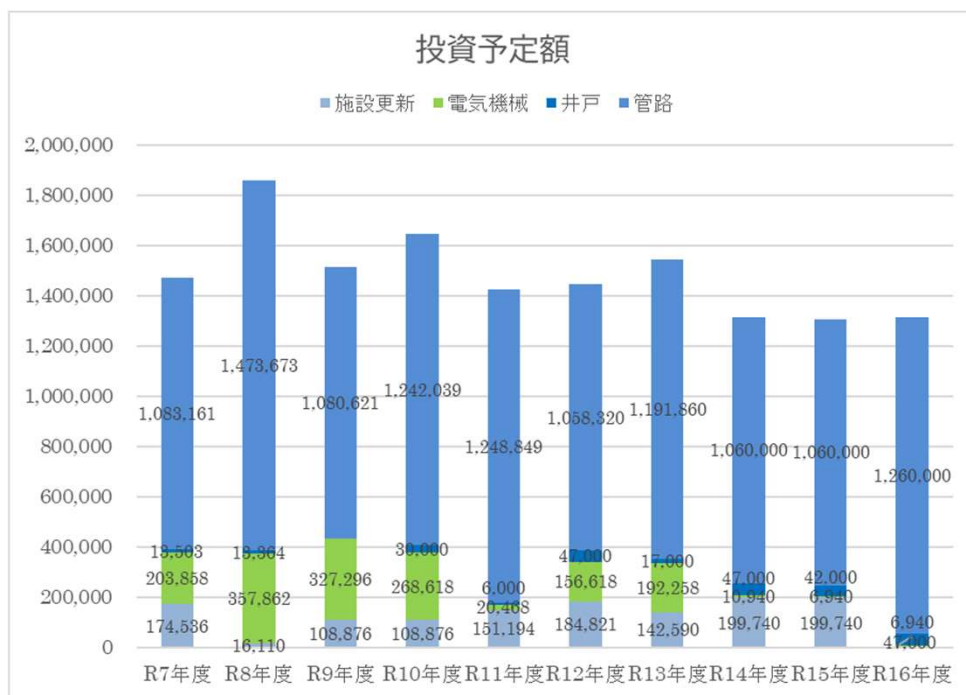


投資・財政計画

投資計画

高度成長期に大量に建設・布設した施設と水道管が更新時期を迎えており、将来の水需要と収支とのバランスを見ながら事業計画の見直しとアセットマネジメントを活用した計画的な投資を行います。

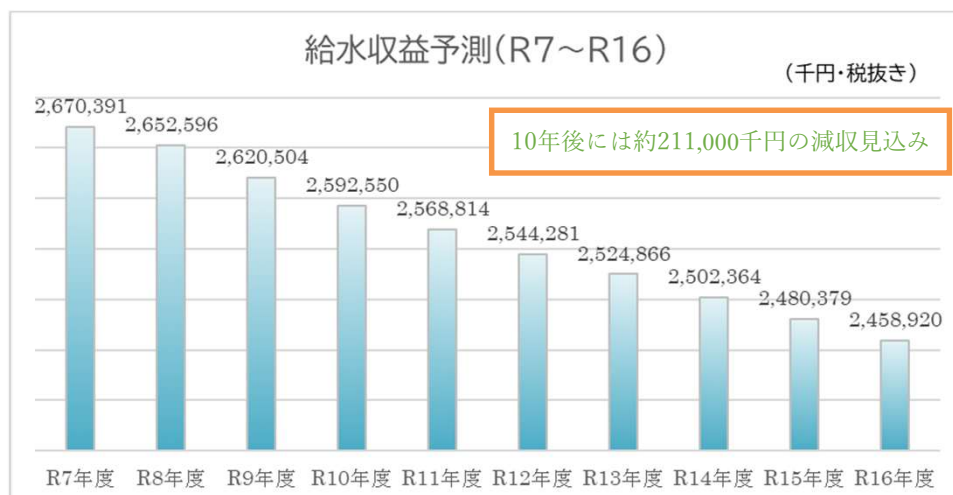
- 施設のダウンサイジングや管路のスペックダウンなど更新費用の削減に努めながら、将来計画に合わせた更新を行います。
- 管路については年間10 k mの更新を行い、令和10年度からは年間13 k mと更新を加速します。計画最終年度の管路の耐震化率32.7%を目標とします。



財政計画

給水収益の傾向として給水人口と比例して減少傾向にあり、現状のまま推移した場合、計画最終年度の令和16年度には計画初年度と比べ216,000千円の減収と厳しいものとなっています。

- 経費の削減を行いながら、水質検査の広域受託のような収益増加の取り組みを行い、安定した経営基盤を目指します。
- 物価上昇や燃料費高騰などの影響により、利益剰余金は令和12年度にマイナスになる予測であり、水道料金の見直しが必要となってきます。



持続可能な水道事業のために

組織体制の見直しと強化

少子化が進み若年層人口が減少することに加え、民間企業における労働環境や給与水準の改善、働き方の多様化などを背景に公務職場においても人員の確保が難しくなっています。

技術力の維持は優先課題の一つとなるため、経営努力として経費抑制を進めながら組織体制を構築していかなければなりません。

- ① 適正な人員配置による技術継承
- ② 研修体制の充実
- ③ O J T（現場や職場で行われる業務指導）
- ④ 広域連携の推進



技術研修場での合同防災訓練の様子

進捗管理と今後の展望

このたび、米子市水道ビジョン2025の発行に伴いビジョンと経営戦略を統合し、事業全体を見据えて一体化した管理を行うこととしました。

これらについて、PDCAサイクルを活用した毎年度ごとの進捗管理（モニタリング）と5年ごとの経営戦略の見直し（ローリング）を行い、今後予想される水需要減少と施設等の老朽化更新にかかる事業費増大に対応するため、中長期的な視野で経営基盤の強化と安定した事業経営に向け取り組んでいきます。

水道は住民生活にとって欠かせないライフラインであり、安全な水を安定して供給することが求められています。今後も安心・安全な水道を提供し、安定したお客さまサービスを維持していくため、より一層の努力を行ってまいります。

